山の家で学んだこと

五年　Ｎ・Ａ

私は、山の家に行くまでとても楽しみだったけど、少し不安な気持ちもありました。なぜかというと、私は班のリーダーで、うまく班をまとめられるか、みんなと協力できるかなど、心配なことがたくさんあったからです。でも、行ってみると、自然とみんなで協力したり声をかけ合ったりできて、とても安心しました。

私が山の家で学んだことはたくさんあるけど、中でも協力することや何でも挑戦することの大切さを学びました。私は今までは自分から挑戦することが苦手で、これまであまりできていなかったけど、これからはどんどん挑戦しようと思います。

学年目標は「ウィーアーチャレンジャーズ」です。大変なことがあっても、みんなで協力して乗り越え、仲良くなったみんなと一緒にがんばりたいです。

私たちの「友情の火」

五年　Ｙ・Ｓ

私は、花背山の家で仲間とあらゆることにチャレンジしましたが、一番心に残ったのはキャンプファイヤーです。なぜなら、活動を通してとても大切なことに気づいたからです。

キャンプファイヤーは、「レクリエーション係（略名レク係）」の計画・進行での活動でした。私もレク係の一員だったので、キャンプファイヤーへの思い入れは人一倍強かったです。みんなと仲を深められる活動にするため、私は全力を尽くして活動にたずさわりました。

会場の中央に火が灯り、ゲームが始まりました。炎を囲んで楽しむみんなを見て、「この人たちと一緒に過ごせるこれからの生活も楽しみだ！」と、未来への希望を思い描きました。今思うとキャンプファイヤーのあの火は、私たちのきずなを表す「友情の火」だったのかもしれません。

初めての体験！山の家

五年　Ｙ・Ｍ

花背山の家では、山の家の自然を生かした貴重な体験ができる場所だと思いました。例えば、火おこし、野外炊事、魚つかみや魚さばきなどで、特に印象に残ったのは、魚つかみと魚さばきでした。

初めての体験でしたが、つかめなかったらどうしようという不安よりも、「イワナがかわいそう。」という思いの方が強かったです。でも、山の家の方や先生の話を聞いて、食べられることへの感謝を大事にしようと思えました。この体験をした後から、給食や家での食事で魚や肉が出てきたら、残さず無だにせず、感謝して食べています。

このように、二日間の体験は、帰ってからの生活に大きくえいきょうしています。私はこれからも、自然や生き物を大切にしようと思いました。

感謝をこめて

五年　Ｉ・Ｔ

僕は、山の家で、命と人への感謝を感じました。

まず一つ目は、命への感謝です。魚をつかみ、焼いて食べたことで、改めて「いただきます」という言葉の大切さや命のありがたさを学びました。その後に感謝していただいたイワナは、とてもおいしかったです。

二つ目は、人への感謝です。コロナで大変な中、バスの運転手さんはじめ、多くの大人の方に支えていただきました。子どもも、ファイヤーはレク係、カレー作りはそれぞれの担当、など分担し、ぼくらのがんばりも大成功でした。人ではなく、山の女神にも感謝しています。「協力」「つながり」「挑戦」「感謝」のメッセージも、心にひびきました。

山の家では、感謝することがたくさんありました。この思いを行動に変えて、がんばっていきたいです。

楽しかった山の家

五年　O・S

私は最初、山の家に行きたくありませんでした。家族がいないのは不安だからです。ところが、山の家の説明動画をみんなで見たり、班のよくしゃべる友達と準備を進めたりするうちに、だんだん山の家に行きたくなってきました。そして、一週間前には、早く行きたくて仕方ないほどになっていました。

山の家に行って楽しかったことはたくさんありましたが、中でもカレー作りが一番でした。私はごはんの係で、ごはんがこげていないか心配になりすぎて、なんども先生になべの様子を見てもらいました。その結果、まったくこげていない、ツヤツヤピカピカのごはんができあがりました。カレーもからくなく、ごはんとの相性がバツグンで、とてもおいしかったです。

山の家では、自然の素晴らしさが分かっただけでなく、友情を深めることや責任を果たすことの素晴らしさにも気づくことができました。

当たり前の大切さ

五年　I・H

ぼくはこの二日間で、当たり前だと思っていた三つのことへのありがたさを感じました。

一つ目は、命をいただくことです。普段はさばいた魚を見たり食べたりすることが多いですが、今回はつかまえるところから始まり、さばく体験もしました。とても難しかったですが、じっさいにやってみたことで、命について真剣に考え、食べることに感謝できました。

二つ目は、火があることです。今までに料理をしたことはあっても、火おこしから始めたことはありませんでした。今はボタン一つで火がつくことは当たり前ですが、苦労して火を起こしたことで、火が使えることへのありがたさを感じました。

三つ目は、何より山の家で活動ができたことです。一つの行事でも、多くの人の協力なしではできません。周りにいる大切な人の存在を改めて感じました。

とても充実した二日間を過ごすことができました。

ぼくが楽しかったこと

五年Ｎ・Ｋ

ぼくが花背山の家で楽しかったことは、魚つかみです。イワナがつかめなくても友達が「こっち！こっち！」と呼んで、助けてくれました。協力してできることを実感した活動でした。

キャンプファイヤーも楽しかったです。山の女神が火の子たちに「協力」「つながり」「挑戦」「感謝」の火を渡し、それから炎がもえあがり、ゲームや歌を楽しみました。

ねる時間もワクワクしました。友達と一緒にねるのは、本当に楽しかったです。

このような楽しい経験を通して、学んだこともありました。それは「時間を守る」ということです。七月のあじなす目標は「みんなと自分のために時間を守ろう」です。しっかりと学んできたぼくたちが、明徳小学校のみんなをリードしたいと思います。

仲間との二日間

五年　Ｉ・Ｓ

私は山の家での二日間で、学校生活ではできない体験がたくさんできました。

特に、魚つかみ・さばきが心に残りました。つかむ時にはだれかとの「協力」が必要でした。五年生のみんなには、アドバイスをしたり、はげましたりなど、おたがい応えんし合うふんいきがありました。さばく時には、一人での「挑戦」が必要でした。班の友達は魚をさばくのがこわいと思っていなくて、みんなにさばき方を教えていました。そんな友達のたのもしさも知りました。そうして、助けてもらったとしても、自分でやり切ることができました。

スコアオリエンテーリングでは、班でまとまって「五分前行動」を意識できました。みんなで楽しみながら、身の回りの自然の素晴らしさも感じながら、広い所内をまわりました。

山の家で学んだことは「協力」「挑戦」「五分前行動」のほかにもいろいろありました。これからの生活に生かしたいです。